

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は5.10(347例)で、第47週以降減少しています。全国では第48週以降減少していましたが、今週は9.03で先週(8.13)に比べ微増しています。年齢群別では、「5～9歳」が最も多く、次いで「20～29歳」です。
第3週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した9例のうち、7例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(2例は陰性)。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.68(28例)で、過去5年平均値(0.66)をやや上回っています。年齢階級別では、15歳以上が2例で、その他はすべて10歳以下です。

◆ 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

定点当たり報告数は、9.71(398例)です。本市の過去5シーズンの推移では、流行のピークは第47週から第51週(11月後半～12月ごろ)にみられますが、今シーズンは、12月ごろから増加が始まり、年末年始の連休後再び増加していますので、今後とも動向に御注意ください。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ お知らせ (京都市衛生公害研究所ホームページ 新着・トピックスの一部変更について)

「疫学情報部門トピックス 京都市感染症情報」(下記URL)に以下の情報を追加致しました！
[<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>]

「病原体情報」を「月単位の報告」に追加致しました。

・「病原体情報」のURL:<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000072537.html>

「インフルエンザ・小児感染症の疾患別推移 グラフ」を「週単位の報告」に追加致しました。

・「週単位の感染症情報」のURL:<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000065390.html>

この機会に、是非、御覧ください。

なお、京都市感染症週報の紙面に掲載しておりました「病原体情報」につきましては、ホームページへの掲載に伴い、今後、割愛させていただきますので御了承ください。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 2例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 8例(肺結核 5例, 肺外結核 3例, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 3例)】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	5.10	347
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.71	398
	② 水痘	0.95	39
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.68	28
	④ 突発性発しん	0.37	15
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

病原体情報

今後、割愛させていただきます。お手数ですが、今後は、下記のホームページを御覧ください。

・「病原体情報」のURL:<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000072537.html>

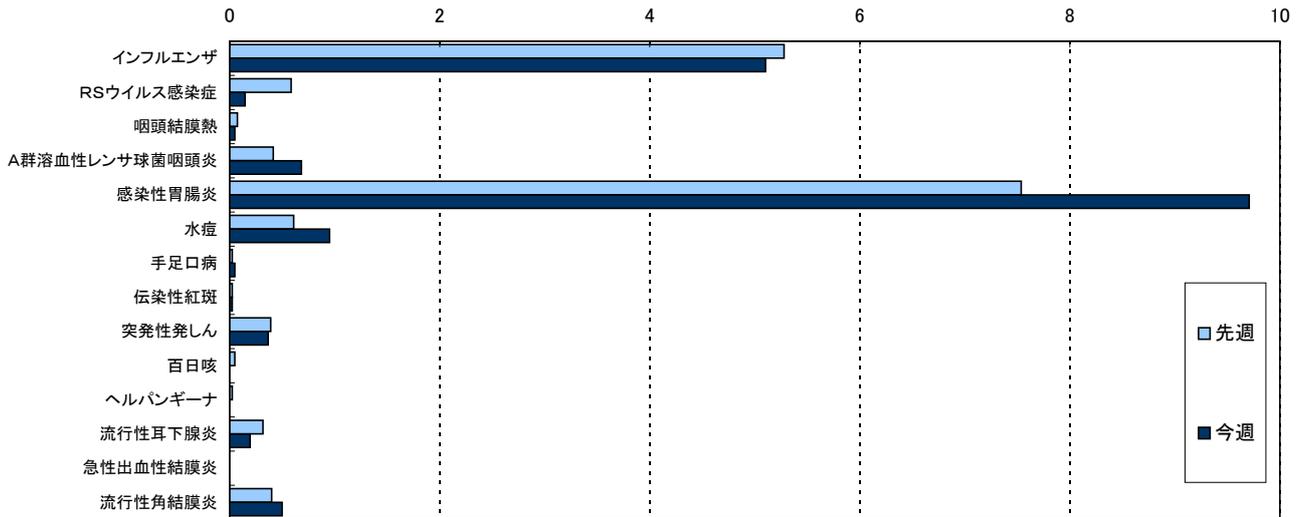
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

(注)京都市のデータは、平成22年1月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

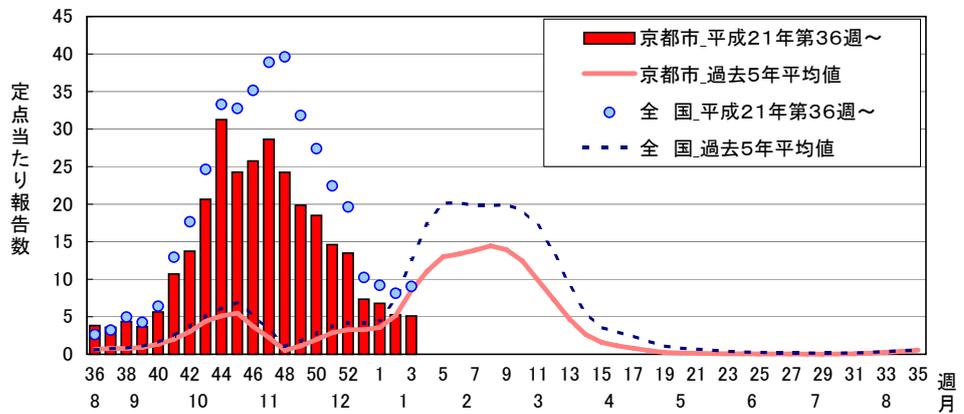
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第3週)と先週(第2週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

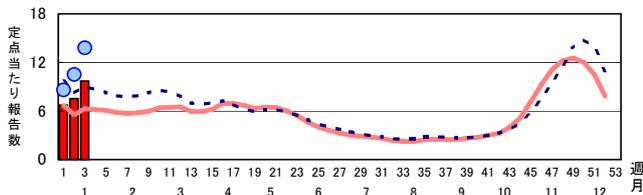
週	報告数(例)
第52週	917
第53週	499
第1週	461
第2週	359
第3週	347
累積報告数 (第36週以降)	19807



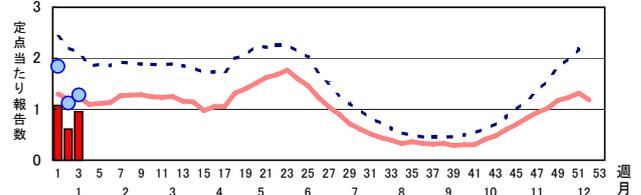
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

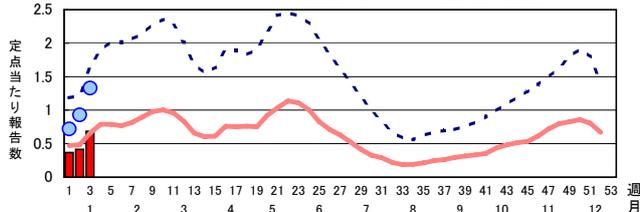
1 感染性胃腸炎



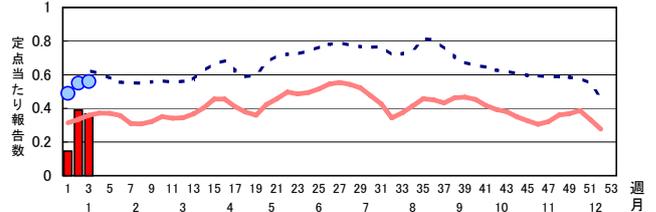
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

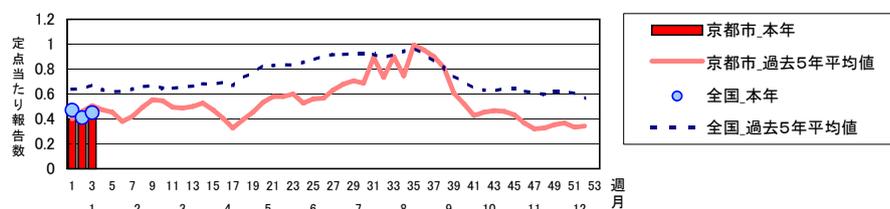


4 突発性発しん



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第3週(1月18日～1月24日)トピックス: <感染性胃腸炎>

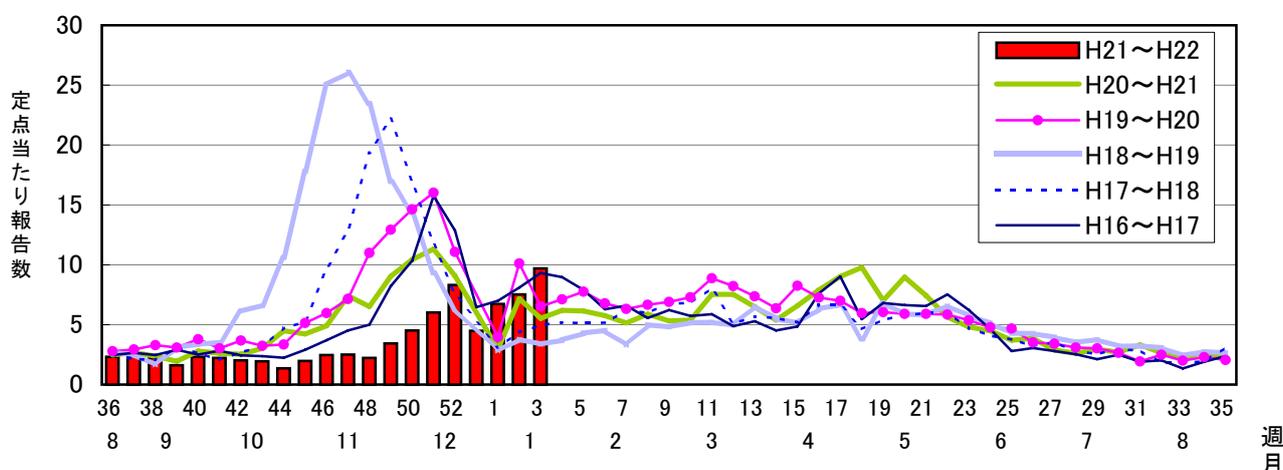
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.71(398例)です。本市の過去5シーズンの推移では、流行のピークは第47週から第51週(11月後半～12月ごろ)にみられますが、今シーズンは、12月ごろから増加が始まり、年末年始の連休後再び増加していますので、今後とも動向に御注意ください。

全国の定点当たり報告数についても増加しており、都道府県別では、46都道府県中22府県で、先週に比べ増加しています。

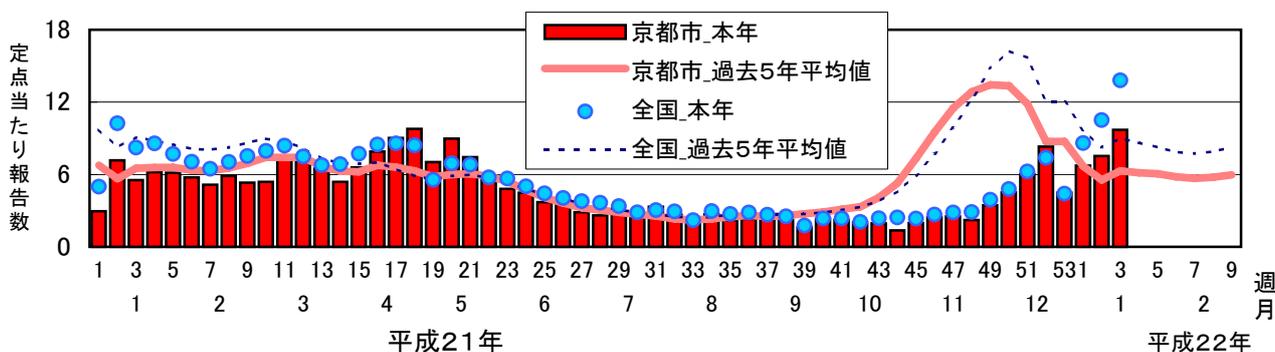
年齢群別では、各年齢層から幅広く報告がありますが、1歳が62例(15.6%)と最も多く、5歳以下が58.3%と半数を超えています。

なお、京都市衛生公害研究所では、感染性胃腸炎患者からノロウイルスGⅡをすでに多数検出しています。全国においても、感染性胃腸炎患者から検出されることの多いSRSV(ノロウイルス、サポウイルス)及びロタウイルスのうち、ノロウイルスGⅡが最も多く検出されています。

本市のシーズン別定点当たり報告数の推移



本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移

